

「さくらカード」は後退させないで！

2018年4月から「さくらカード」見直しの検討始まる

今年4月に、「高齢者及び障がい者の社会参加促進等に関する検討会」が設置され、「さくらカード」制度見直しの検討が始まりました。
10月までの7カ月間に5回の検討会が開かれ、「さくらカード」制度のあり方についても、一定の方向性が取りまとめられます。
検討会の委員は12名、委員長は県立大学教授・澤田道夫さんです。

利用者に喜ばれ、社会参加に大きな役割を果たしてきた

「さくらカード」制度は、当初高齢者・障がい者・被爆者を対象とした無料パス券制度として、1996年10月にスタート、今年23年目を迎えます。

2004年から高齢者等2割、障がい者1割の利用者負担が導入されましたが、障がい関係者の強い要望で、2005年から年間2000円

で利用できる障がい者の「おでかけパス券」制度がつけられました。しかし、2016年から、ICカードの導入に伴い「おでかけパス券」が廃止され、障がい者も一律1割負担となりました。

紆余曲折はあったものの、利用者の社会参加に大きく貢献してきました。

障がい者を無料にし、高齢者の制度も守りましょう

現行制度を後退せずに、障がい者については無料にしてほしいというのが、当事者の願いです。

党市議団としても、当事者の立場に立ち、制度の存続・改善に取り組んでいきたいと思っております。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまだか 山部ひろし

熊本市中央区手取本町1-1 3階

NO.1096 2018年5月20日
電話 328-2656 FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：共産党 熊本市議団

検索



2018年第2回定例会日程決まる

【日程】

- 6月4日(月) 開会(本会議)
- 6~8日 一般質問
- 11日~ 委員会・予算決算委員会分科会
(請願・陳情の趣旨説明)
- 15日(金) 予算決算委員会・締めくくり質疑
- 19日(火) 閉会(質疑、討論、表決)



* 請願提出締め切りは、6月4日(月)午後5時まで

* 陳情提出締め切りは、6月6日(水)午後5時まで



今回の一般質問は、山部洋史議員です
6月7日(木)午前10時より
市役所議会棟・5階本議場

【控室から】 「母の日」

上野みえこ



5月の第2日曜日は「母の日」でした。それぞれの人々がそれぞれの思いで母への感謝を伝えられたのではないのでしょうか。
私は、30年以上夫の母と同居して、実母との生活の2倍近い月日を一緒に過ごしてきました。もちろん今では、実家の母以上に「ツーカー」の仲です。(と、私は勝手に思っています)そして、いつも家事を支えてくれて、一番の協力者です。そんな夫の母には、「ありがとう」の言葉がいくつあっても足りません。私の4人の子どもたちを見守り、育ててくれましたが、今は同居しているひ孫の一番の遊び相手です。そして、そんな孫たちから元気をもらってか、とても元気に生活しています。
実家の母は、一人で暮らしています。これからの季節は、カエルや虫の音が響き渡るような田舎で、寂しいときもあるでしょうが、ボケないように、寝たきりにならないようにと、畑を耕し、花を植え、心がけて体を動かして暮らしています。
どちらの母も、介護状態にならず、元気に暮らしていることが、私には何よりうれしく思います。これからも体を大切に、元気に過ごしてほしいです。

子どもの元気を育てる学校給食

4月16・17日の2日間、大阪社会保障推進協議会主催で、医療・福祉・教育分野の問題での議員研修会が開かれ参加しました。

今回は、その一つ「学校給食」について報告します。

「日本一の学校給食は可能なのか～宝塚市給食から自治体行政を考える～」と題し、現職の宝塚市教育委員会学事課長がお話されました。

「学校給食」は教育の一環です

「日本一」と自負されている宝塚市の学校給食は、「教育の一環」であるということが明確にされ、各学校長の指揮下のもとに、自校直営方式で提供されています。

調理員が、教室に行って給食指導の補助をするなど、学校教育の場面に様々な形で登場します。調理員による「食育劇」の取り組みもあります。

給食は、やっぱり「自校方式」

宝塚市では、過去に調理業務の民間委託を行った時期がありました。現場のリーダーの資格要件が契約どおりでなかったり、異臭・異物混入等もあり、「直営」に戻されました。

宝塚市では、

小学校 24校・15,200人

中学校 12校・5,500人

支援学校 1校・20人

幼稚園 12園・700人

に学校給食が提供されています。「自校直営方式」です。

パンは、当日焼いたものが出されます。おいしい給食は、残量も少なく、子どもたちが喜んでくれていることの証明です。

熊本地震の中で

「自校方式」の帯山西小学校では、栄養職員や調理員等の協力で避難所へ食事の提供が行われました。

献立の栄養バランスや調理中の衛生管理など、学校給食に携わる職員のかかわりによって、避難所運営にも大きく貢献することができ、その取り組みは「食育フォーラム」という雑誌にも紹介されました。「自校方式」での給食提供の大切さを再認識しました。

小学生・中学生の保護者のみなさん

「就学援助」をご存知ですか？

「就学援助」とは、義務教育中、経済的な理由で、就学費用が負担できない家庭の子どもたちへ、その費用の援助をする制度です。就学援助が決定すれば、学用品代・給食費・修学旅行費などが支給されます。

給食費が払えない...

修学旅行の積み立て
どうしよう...



就学援助の条件は？ 私を受けられるの？

「就学援助」という言葉は聞いたことがあるけど、どんな家庭が受けられるのか条件をよく知らないというご相談も多く寄せられます。

市民税非課税世帯、児童扶養手当が支給されている世帯等に加え、右表のような所得基準・給与基準に満たない世帯も対象となります。

議会でも、基準をわかりやすく示すことを求めてきましたが、今回「所得基準」に加え、「給与収入の基準（目安）」も示されました。ご参照ください。

世帯の人数	所得基準額※1	給与収入の金額（目安）※2
2人	199万円	310万円
3人	245万円	374万円
4人	287万円	426万円
5人	324万円	472万円
6人	358万円	515万円
7人	402万円	570万円
8人	447万円	626万円
9人	492万円	680万円
10人	537万円	730万円

就学援助の受付はいつでもできます。ご相談などあれば、ぜひお寄せ下さい。

問い合わせは日本共産党熊本市議団へ 328-2656